

あなたに

出逢えて：

— 第三十号 —

— 今年の始め、私達は春美会でこの一年に對する

思いを一人一人かたりました。

一年が過ぎ私達は春美先生に学び、そして心に刻みました。

有り難い一年を過ぎさせた事に感謝しています。

—

紫苑さん

こんばんは。

十二月の春美会をはじめさせていただきます。

今日は幸運なことに幣立神宮の春本仲哉宮司様にきていただくということで最後の最後の締めにも本当にありがたい春美会をさせていただくことになりまして本当に、お神様を背負ってきていただくということを春美先生からいつていただき本当にありがたくて緊張しています。

皆様もこころ待ちにしていらっしゃっていた事とおもいます。なにか大きな大切なものを頂いて新年を迎えさせていただきたいとおもっていますので宜しくおねがい致します。



— 春木宮司様 —

どうもありがとうございます。

最近は色んな問題が起こっております。教育問題とか行政問題とか・・・色んな物事がおきていますけれども、問題の起こる元はひとつしかないんです。ひとつなんです。例えば病氣の場合も頭が痛かったり熱がでたりお腹が痛かったりしますが、どこかがひとつ悪いのではなく体全体が悪いから入ってくるんです。それぞれが悪いんではないんです。今の西洋医学では、熱がでれば熱さましお腹が痛ければ鎮痛剤を与える。それぞれ別々というとらえかたをしているんです。ところが人間別々という考えなら心臓ひとつなくなってもいいかなと・・・でもそういうわけには行きませんね。心臓がなくなれば人間全部ダメになってしまうんですよ。

ちょうど今のようにな世の中が非常に多様に問題が山積したときに、中国の呂坤という人がそれを改善するために、こうしたらいいという文章を書いたのがあるんです。

呻吟語というんですけど、青年地球誕生（春木宮司著書）の二十四ページに書いてあるんですけど

水の千流萬脈は一源に始まる。(ひとつの源からはじまる。)

木の千枝萬葉は一本に出ず。

人の千酬萬応は一心に發す。(人の色んな思いとか問題はひとつの心から發するんだ。)

身の千病萬痛は一臓に根ざす。

千萬に眩ずるは孝世の大迷なり。(それぞれに悩むのは世の中の人々皆こぞっての大きな病である)

直ちに原頭を指すは智者の独身なり。(すぐに問題を解決・取り除こうとするのは頭のいい人のひとりよがりという事)

ゆえに病は一を治めて千萬皆除かれる。

政(まつり)は一を理めて千萬皆奉る。

〃物事は原因はひとつなんだ〃と・・・

例えば木が一本あります。一本の木から枝葉がたくさんでます。しかし一本の木の根元を切ったら全部かれてしまうんです。

だから色んなものはひとつから生まれるということを書いてあるんです。

要するに誠実にひとつを治めて根源をきちんとすればすべて上手くいく。

ということを書いてあるんですね。

今の世の中は根源をふれないんです。

みんな部分の枝葉を議論するんですよ。

いっぱい議論するんです。

ですが解決するための根本的な話をしないんです。

最近はいじめ問題、学校ではどう対応したか、教育委員会はどうかとか・・・

戦後の教育問題はずーっと改革してきました。改革していいことはひとつもないんです。

改革するたびにもっと悪くなるんです。なぜかという、何かの問題に継ぎ足すばかりなんですよ・・・

いくら継ぎ足しても例えばゆがんだものはゆがんでいくばかりなんです。

色んなものは根本がまがっていたらいくら上手くやろうとしてももうゆがんでいくばかりです。最後はこわれます。

今の状態はなにかから来てるかという、全体を支配している物の考え方なんです。

例えばいじめ問題にしても、「お宅の子供さんがいじめています」と言うと



「証拠はありますか？責任問題ですよ、人権問題で訴えますよ」って必ずいいますね。

だから、学校の先生たちはそれを言えないでいるんですよ。

具体的なデータが持てないんですよ。

そして子供に聞いたときもね、いじめられている子供に聞いてもいじめられてい
ると言わないですよ。言ったらね、あくる日からまたいじめられますから。

だから「いいえ、そんな事はありません。」と我慢するんですよ。

そういう事を繰り返して繰り返してやっていくんです。

これが人間の姿なんですよ。

最近環境問題とかもいっぱいありますけどね、日本の場合、今から四十年位前に
です、日本で一番問題になっていたのが、ヘドロ問題ですよ。

特に教科書に「田子の浦」とかね、田子の浦というと万葉集とかね、非常に景色
は良いし、その周りの人々の暮らしは豊かでね、沢山の詩が残っています。そこ
が今から四十年前は工業から流れてきた水でヘドロが一杯たまって、その頃から
日本で公害問題が起きました。一緒に水俣病がうまれてきました。そういう問
題が起きた時に日本はどうしたかというと、瞬く間に海も綺麗になって魚も帰っ

てくるし、沢山あったヘドロがいつの間にか消えてしまう。要するに消すような技術を開発していったんですね。

そして、昔と同じように魚が沢山帰ってきてるのです。

水俣病もそうですけど、水俣の魚は食べれないと言ったけど、今は食べられます。豊かな海になっているわけですね。

ところがアマゾンはどうなっているかと言うと、年々環境問題、環境問題と言いながら、森は消えるし、川はひどい状態になっています。つい数日前はアマゾン川で大量の魚が死んでいたとかいうのが流れていたんですね。

私達は、アマゾン川というと豊かな森という意識がありますけどね、あそこの川はアマゾン水俣病と言うんですね。もう原住民は水俣病に犯されて酷い状態なんですよね。川の中に水銀が一杯なんですよ。

何で水銀かと言うとね、アマゾンの森の中に凄い金山があるんですね、そうすると皆が金を手掘りで掘って行くんですね。掘った金だけを精製しなきゃなりません。それには昔から水銀を使ってて、水銀と混ぜてそして水銀を蒸発させていき、金だけ残るというやり方なんです。で、水銀だけがどんどん川へ流れていくんですね。

もう一つはね、原住民がなかなか生活が都市化されてきましたから、森の中だ

けでは生活出来なくなってきたわけです。西洋文明が入ってきて、毎年毎年九州に匹敵出来るような土地を伐採していきますから、今のまま行ったら後十五年でアマゾンの森は消えると言われてるんです。

日本はどうするかと言うと、伐ったところははげ山はないでしょう。伐った所に日本は必ず植林するんです。

植林をする事によって、また森がよみがえってくる。それでずっと繰り返していくんですね。日本の森は自然林はほとんど無いんです。全部人手が加わって、森が出来ているんです。人手が加わらないと藪くらになりますからね。色んな生物も住めなくなるんですよ。

生物が住める森と言うのはね、千年位経たないと出来ないんです。何百年経つと木が枯れて倒れる、そういう自然の循環が出来ているけど、現実には人が循環させないと自然は循環しないようになってる。

日本はそれを循環される様な文化を創ったわけですよ。

もう一つは先月八日の日に、ある西洋医学者で、自分が多様性多発性関節炎になって十年間ずっと苦しんだと、大学の医学部の学生だった時、大学の教授に聞いたんだそうです。「治す方法ありますか」と。それしたら「ない」と言われたそうです。

これと良く似たのがリュウマチや癌で、色んな工夫をしても段々とじり貧になるだけだと、元気に仕事をするというのはありえない。

非常に精神的に落ち込んだそうです。しかし自分は医学生でこのまま死ぬわけにはいかない。苦しんだけどその間に薬が無いら自分では活きなきゃいけない。

そしていきついたのは結局、色んな病気の原因は、全ては血が運ぶんだから血液に問題があるんじゃないかと。



綺麗な血液は心臓や脳にいくんです。汚い血液は抹消にたまっていくのだそうです。それから身体は皮膚の表面の近くに出てくるんだそうです。

その血を取りのぞいたら活るんじゃないかと気が付いたわけです。

そしてそれを取り除く方法を自分で開発したて、背中付近に何かをあてると、ドロドロした悪い血液が出てくるそうです。

私達の身体の中はそういうのが一杯入っていて、悪い血液を取り出すと身体がすっきりなるそうです。

身体が痒いとか癌が出来るとかリュウマチになるのも原因はそこにあると・・・。色んな病気の原因はそういう血液の汚れから来るんだという事をおっしゃっていました。

それで血液を綺麗にしないとだめだと。

最近血液サラサラとか言いますが、サラサラになっても汚いものは身体の中に有るんだから、そういう汚いものを出さなきゃいけな。

どんな病気もそこから来ているんだから、その一つを解決すればいいということに気が付いたそうです。

さっき言ったアマゾン川ですね、ブラジルの人達がそこを直すのは日本しかないと言うんです。それはなぜかと言うのもその考え方ですね。

日本の場合の根本的なものの考えかたが何処にあるかと言うと、四つの柱があるんですよ。

一つは、万世一系の天皇と国民。

万世一系というのは次々に受継ぐということなんです、切って次を受継いでいくのじゃなくてずっと一つの事を受継いでいく、これを万世一系というんです。その天皇と共に日本の国がずっと出来てきた。

もう一つは、日本の場合は世界にね全然違う言葉があるんですよ、日本語、国語ですね。日本語というのは素晴らしいんです。

日本語を破壊したから、家庭教育が破壊して子供が破壊してきたんです。

だから、日本の言葉をきちんと復活しないと、いじめ問題はなくならないんですよ。根本はそこなんです、本当。

今ね日本語の中でも一番乱れているのは家庭なんですよ。

夫婦の会話、親子の会話が乱れっぱなしであります。夫婦の会話が乱れると子供は育たないんですよ。

日本の家庭の言葉の美しさは何かと言うと、奥様方が旦那様方に対する言葉、敬語の使い方の美しさなんですよ。

実に美しい会話がね、昔の映画観てるとわかるでしょう。言葉が奇麗ですよ、家庭の中で敬語を使うんですよ。

今は夫婦の会話も荒っぱいですね。朝から戦いの言葉です、同じ言葉もやんわり言うのと力子つと言うのと違いますよ。そういうのに慣れっこになった子供達は荒んできます。

いくらいけませんと言っても荒んだ心は方法論では解決しません。

その日本の美しい言葉をなくしたからなんですよ。

例えば敬語を使わない人は、敬を表す人が存在しなくなるんですよ、謙譲語を使わなくなると人に対して一歩譲ると言う事がなくなるんですよ。

敬語や謙讓語、そういった言葉を使うことによって自分自身の精神が出来ていくんですね。

今の人たちは人よりも私と言う事だから、人よりも大きな声でバーンとかぶせるようなものの言い方をするんです。

常に思いやりが大事ですよといつて喧嘩してるんです。

思いやりとか優しさとか良く言う愛情とか、ようはね使い方なんですよ。

確かに思いやりとか優しさとか愛情とか言葉自体は素晴らしいです、でもね、思いやりをもって人に接しようと言うのは、これは強い人が弱い人に言う言葉なんです。

思いやりをもって人に接するのは自分が接すればいいことであってね。

人に言うんですよ、思いやりを持って接しようとか、人に優しくしようとか、ようするに思いやりという言葉の本質は言っているその人の中に入っていないです。だから言葉だけを皆に大声で言っ、て、思いやりの社会を作ろうとかね。人に言う言葉じゃないですよ。

自分の家の家族でね、おじいちゃんおばあちゃんに対して家族は思いやり持っていないね。思いやりという言葉よりもまず人間関係が普通になっていないんですよ。家族は、思いやりという特別な関係じゃないですね。

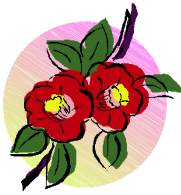
私はね、一番嫌いな言葉が「愛と思いやりと優しさ」というんです、なんで嫌いかというと、愛とか思いやりとかその存在自体は素晴らしいけどその使う心がいやだという話をよくします、思いやりをもっとしましようにというのじゃなくて、自分自身がどう対応しましようにということが大事です。

例えばね「思いやり道路」ってあるでしょう。

ここはね、車椅子でも通れますとか、でもね車椅子で通れるようになってても実際車椅子で通れないんです。なぜか？そこを通ってる人が問題なんです、道路が問題じゃなくて。いくら道路を思いやり道路に作っても結果的には車椅子の人達はそこでなかなか動けない、怖くてしょうがない、荒っぱい人たちがくるから、何かそういう人達に対して気配りがまったく無いですね。

色んな事はですね、第三者に対してこうしましようにというのじゃなくてね自分達がどうするかということを考えていく社会、自分でないとね世の中っていうのは良くなっていけないんです。

全部自分から癸するですね。



自分から癸するということは何に言っているかというと、天照大神様がね天孫降臨の時に日子番能邇邇芸命（にこほのににぎのみこと）に鏡を渡される時に、

こうおっしゃるんです。

「これを見ることは私を見ると思つてこの鏡を見なさい」で古事記にはそこまでしか書いてないですよ。幣立宮の記録にはその先「我があらみたま」と書いてある、自分の心ね「あらみたま」というのは、「あらみたま」とは現在の魂と書いて「あらみたま」というんですよ。

要するに自分が色々思つたりしたりする心の事ことを「あらみたま」と考えたんですね。

ここに写しなさいと鏡に、そして天皇の子孫だから国を治めなさいとおっしゃっていますね。

私達だつたら自分自身をきちんとしなさいと考えたらいいですね。

鏡というのを渡されたんですよ。これはねいつも人を見るんじゃないで自分を見なさいということを文化として伝えてあるわけです。

もう一つはね、天照大神様が天岩戸を出られるとき、皆さんがお迎えに行かれますよね。岩戸開きというんですよ。この岩戸開きというのは、天照大神様をお迎えにするために色んな人たちのそれぞれ力を出し合うんですよ、能力を出し合うんですよ。

手力男命（たぢからおのみこと）が力を出します、天児屋命（あめのこやねのみこと）という人が皆さんの精神的な支柱になりますと、猿田彦命（さるたひこのみこと）というのが皆さん方にきちんと方向を示して道案内をしますと、思金神（おもいかねのかみ）が知恵を出して皆さんと一緒に力を合わせられるようにしましょうと、伊弉斯理度売命（いしこりどめのみこと）、これはね技術ですから鏡を作ったり自分の持つてゐる技術を出しますと、天宇受売命（あめのうずめのみこと）とは皆さんを和やかに全部まとめて行きますと、そういう能力を持ち寄つて一つの目的を果たすわけです。それが岩戸開きなんです。

色んな能力を持ち寄つて何かを仕上げるというんです。仕上げた後皆さんで喜びあいましょう、これをお宮ではなんと言うかというのと、皆さんで喜び合つて更に次頑張りましょうというのが「直会（なおらい）」というです。お宮では「直会」というんですね、「直会」というのは大事な儀式なんです、更に次の為。

そういう一連の全体の構造のことを日本では、私は「和」の文化と思うんです。

「和」というのは別の言葉でいうと私は「直会」と言う言葉が「和」と思うんですよ。

なぜかという「和」とは稲を口にすると書いて有りますからね。

共に食事をしながら更に心を高めあいましょうということなんですよ。

一つは万世一系の天皇、そして鏡、これは自己教育ですね、そして稲作のこ
とを天孫降臨の時は稲穂の神勅（しんちよく）といって日本人の暮らしを守るた
めにはこの種籾を持って行って稲作を広めていきなさいといってニギノ命にそ
の使命を依頼されるわけですよ。

この三つを日本はこの神社の祭りを通して受継いで来たわけですよ。
祭りというのはその原点を見る、常に原点によりみかえるといふ事を祭りといふん
です。

だから、昔のまま私達はその形を残していくんですよ。原点っていうのを忘れな
いためなんです。『根本を忘れるな』ということが祭りなんです。

お祭り騒ぎと違いますよ、祭りというのは『根本を忘れない事、その為の儀式』
というわけです。この四つが日本の文化なんです。

その四つを今日本ではね排斥しているわけですよ、だから日本は狂っていくん
ですよ。

いくら部分的に修正しても狂っていきます。

私達はその元になるものをきちんとしないと結果的にはいくら方法論をやっても
上手く行かないんですよ。

平和というのはもつと具体的なものですよ。

夫婦でも平和にならないんですね、親子もなかなか平和にならない。

平和とはねお互いが生き生きと生活するということですね。とにかく毎日いやな思いして暮らさないということです。

これが一番の平和ですから、というふうに具体的ですよ。

例えば旦那さんがよく遊んだら平和になりませんもんね、やっぱり仕事して給料を持ってこないといけない〃お金〃を、これが平和の第一ですよ。

子供達も親の言う事を聞いてよく勉強しよく運動し、色んな活動をする事、これが平和ですよ。それをやってないと家族全体が不幸です。

例えば学校に行かなくなっただけで、親も不幸だし本人も不幸ですね。

そういう事をねきちんと活動する事が一番平和なんですよ。

そういうことを頭に置かずになんて言葉を使うんですよ。

具体的に自分の事で活動していかないとね、いくら立派な事をしゃべってもそれは何にもなりません。

私達はですから日本のことを考える時は日本の国の文化、自分の事を考える時は自分自身がどうありたいのか、その為にはどうしたら良いかという事のその

『根本』

を考えないと駄目なんですよ。

例えば夫婦がよく喧嘩するから喧嘩を止めようと思ったって簡単には行きません。喧嘩する元があるんですよね、例えば自分がだらしないとか、言葉が悪くて腹が立つとか、色んな元がありますよね、その元を直していけないとうまくいかないんですよ、だから

『どんな時もねその一番の元は何かということをおね考える習慣をつけないと色々な事は解決しません！』

私は、神社に毎日お祈りしますけどね、神社のお祈りとは一番元を考えるとどういうことなんです。

祭りとはね、元の通りにするということなんです。

元をよみがえらせてその精神を発展させていくという事が祭りなんです。

長くなりましたが、実はね今日は一つしか言っていないですよ。

根本からちゃんと考えなければ駄目ですよ。

元を直さないと結局治らないという事。

それを今日はくどくどと一つだけ言っただけです。



春美先生

有り難うございます。

幣立神宮の春本宮司様に来ていただいて私本当にもう感謝で一杯でございます。

私が一番最初幣立神宮に行ったのは三十何年前なんですよね。

阿蘇の麓の神社が貴方を待っていますと言われて、でもなかなかその場所を探し出す事が出来なくて、やっと探し求めて三十歳頃に幣立様に行きました。

その時はお祖父様がいらして、ただじつと見てるような感じで、そして幣立様には週に一回ぐらいずつとお参りさせて頂く中、この御神様私に何を求めてるんだろうと思つて、でも幣立様から何かを学ぶんだなつて気づいたのがその時だったんです。

何にも解らないままただただ御参拝だけいつもいつも行つておりました。

そして、宮司様も教職でいらつしやつたので少ししかお話する機会がなく、奥様なんかもそうでした。

ある時一週間ぐらい幣立様にお邪魔させていただいた時は、私はいつも凄い毎日毎日仕合せてした。

もう、今はなくなつてゐるんですけどまえに御神様が居られてその空気がとても有難くてずつとそこで寝泊りしまして。宮司も本当にお兄さんみたいに良くして

頂いて、お兄さんなんて言ったら怒られるかもしれないんですけど、お兄さんみたいな方だなという感じで私はそこに居りました。

幣立様というのは不思議で不思議でしかたがない空気をいつも感じさせていただいて、有難い有難いと思っております。

本当にお神様が素晴らしいものを下さって、いつも私は幣立様の地に立つと上から沢山ぼろぼろと降ってきていつも頂きます、それもはつきり解らないんですけども人の心の奥底にある誠みたいなものがパンと開くのではないかなと思います。でも、本当に幣立様が大好きで、宮司様が春美会をしているのはご存知だったんですけども、まさかこのような流れで来てくださるようになって。

お電話あったときから御神様みたいなものをずっと感じて、御神様とご一緒に来てくださる、なんて有難いん事でしょう、春美会はそこまで理が出来たんだなと思います。

いつも春美会の中で私が話させていただく、自分が仕合せだったら絶対駄目だよね、周りの仕合せ考えるような精神じゃなければ。

本当に春美会という会で、私も随分成長させて頂きました。そして新たに人を助けさせて頂く事ってこんなに有難いことだと思つづく感じる事が出来たてそれとても有難く思います。

そういう感じで集まった会なのでそれぞれが直一層「誠で素直な気持ち」で人間を磨かれていかれたら良いなと思っております。

宮司の話というのはその時ピンと来なくても何かあったときにあの時こうおっしゃってたよね、これはこうなんだろうって言う神様、幣立神宮のお神様の理を汲みただけのんじゃないかと思っております。

結局魂が聞いてなかったら一緒なんです。

だから魂の問題じゃないかなと思います。

そして、皆さんがそれぞれ心清々とした気持ちで心一つになって宮司のお話をしっかりと聞いてくださった事が一番有難いと思いました。

真なる心のお礼を人間である宮司にお言葉をお出しして幣立様の御神様が受け取られます、ですからその心でお礼をさせていただきたいと思っております。
本日はどうも有り難うございました。



*
*
*
*
*

*
*
*
*
*

— あとがき —

相手の心を大切に思うこと・・・

許すこと・・・

そうすれば心がひとつになる。



第四十五回春美会

会場 魚一

日時 平成十八年十二月十三日七時半

より

— 司会・紫苑 —

*
*
*
*
*